

(別紙様式)

## 平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業ブロック協議会資料

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔 岩手県 〕

## 1 拠点校及び連携校

区 分	学 校 名	学級数	児童生徒数
拠点校（中学校）	盛岡市立見前南中学校	12（0）	422
連携校 （拠点校中学校区 内の小学校）	盛岡市立永井小学校	12（0）	352
	盛岡市立見前南小学校	12（0）	330
		（ ）	
		（ ）	

※学級数の（ ）には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

## 2 意識調査（アンケート共通項目）

（％）

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	415	51.5	36.6	9.4	2.5	63.6	29.5	5.7	1.2	30.9	51.5	13.4	4.2	30.4	47.3	18.6	3.7
		前年②	415	50.4	41.0	6.2	2.5	59.2	33.4	6.1	1.3	29.1	52.4	16.5	2.0	22.5	57.5	17.5	2.5
		本年①	422	56.9	35.0	5.7	2.5	65.0	30.3	3.7	1.0	36.7	46.8	15.0	1.5	28.8	50.2	18.7	2.2
	3	中2①	152	43.6	38.3	14.1	4.0	52.3	35.6	9.4	2.7	21.5	53.7	18.1	6.7	21.5	48.3	23.5	6.7
		中2②	152	45.4	40.4	8.5	5.7	51.1	36.2	9.2	3.5	22.0	56.7	17.0	4.3	17.0	51.8	26.2	5.0
		中3①	152	50.3	38.1	7.5	4.1	55.1	36.7	5.4	2.7	25.2	50.3	21.8	2.7	19.7	49.7	27.9	2.7
	2	中1①	137	64.7	27.8	6.8	0.8	72.2	23.3	3.8	0.8	42.9	45.9	9.8	1.5	42.1	46.6	9.0	2.3
		中1②	137	48.5	45.5	6.0	0	61.2	34.3	4.5	0	20.9	59.7	18.7	0.7	22.4	61.9	13.4	2.2
		中2①	138	53.0	40.9	3.0	3.0	65.2	31.8	3.0	0	34.8	54.5	9.8	0.8	25.0	56.8	15.2	3.0
	1	小6①	102	61.4	35.6	2.0	1.0	77.2	20.8	2.0	0	43.6	45.5	8.9	2.0	51.5	42.6	5.9	0
		小6②	102	59.8	32.4	3.9	3.9	72.5	20.6	4.9	2.0	38.2	47.1	10.8	3.9	45.1	47.1	6.9	1.0
		中1①	132	68.5	25.2	6.3	0	76.4	21.3	2.4	0	52.0	34.6	12.6	0.8	43.3	44.1	11.8	0.8
小学校	高学年計	前年①	227	69.0	26.5	3.1	1.4	81.9	16.8	1.3	0	38.5	51.8	8.8	0.9	51.8	43.4	4.8	0
		前年②	227	60.9	32.4	2.7	4.0	77.8	17.8	3.6	0.9	30.2	56.0	12.0	1.8	44.0	50.7	4.9	0.4
		本年①	245	72.1	25.0	2.5	0.4	81.6	14.8	2.9	0.8	47.1	41.8	10.2	0.8	62.7	32.4	4.1	0.8
	6	小5①	125	75.2	19.2	4.0	1.6	85.6	13.6	0.8	0	34.4	56.8	8.8	0	52.0	44.0	4.0	0
		小5②	125	61.8	32.5	1.6	4.1	82.1	15.4	2.4	0	23.6	63.4	13.0	0	43.1	53.7	3.3	0
		小6①	124	77.2	21.1	1.6	0	85.4	12.2	1.6	0.8	46.3	43.1	9.8	0.8	64.2	28.5	6.5	0.8
	5	小5①	121	66.9	28.9	3.3	0.8	77.7	17.4	4.1	0.8	47.9	40.5	10.7	0.8	61.2	36.4	1.7	0.8

学校種	学年等	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	422	93.8	3.7	1.5	1.0	89.7	6.9	1.7	1.7	94.1	4.4	1.0	0.5	91.1	6.7	1.2	1.0
	3年	152	96.6	0	1.4	2.0	91.8	4.1	0.7	3.4	95.9	3.4	0	0.7	93.8	4.8	0.7	0.7
	2年	138	93.2	5.3	1.5	0	93.2	5.3	0	1.5	93.9	4.5	1.5	0	90.9	7.6	0.8	0.8
	1年	132	91.3	6.3	1.6	0.8	83.5	11.8	4.7	0	92.1	5.5	1.6	0.8	88.2	7.9	2.4	1.6
小学校	高学年計	245	86.1	11.1	2.9	0	74.6	18.9	3.3	3.3	88.1	10.2	1.6	0	82.8	15.2	1.6	0.4
	6年	124	91.9	8.1	0	0	84.6	12.2	1.6	1.6	92.7	5.7	1.6	0	85.4	11.4	3.3	0
	5年	121	80.2	14.0	5.8	0	64.5	25.6	5.0	5.0	83.5	14.9	1.7	0	80.2	19.0	0	0.8

※小学校は連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施

※「オ」～「ク」の項目の調査は平成25年度から実施

### 3 課題・目標・取組

課題	家庭、地域の生活環境の変化により、自己有用感や社会関係能力の低下、学業不振等に起因する学校不適應の生徒がみられる。
目標	小中連携を通じた学習指導と人間的な触れ合いのある体験活動の充実を通して、自己有用感と集団への所属感をもった児童生徒を育成する。
取組	①自己有用感や所属感を高めるための学校行事や特別活動の充実 ②児童生徒一人一人が所属感をもって学び合える授業づくり ③小小交流、小中交流などの関わりを意識した体験活動の充実

### 4 意識調査結果の分析

#### (1) 好ましいと思われる事項

小・中共通	「ア 学校が楽しい」「イ みんなで何かをするのが楽しい」とともに、90%以上の児童生徒が肯定的な回答をした。児童生徒は「友人関係の構築」「行事等における充実感」「学び合い学習において学習への意欲の向上」など、学校生活に満足感を得ている。その要因としては、活動を行わせる際に時間的な余裕をもち、活動の意義について事前・事後指導をしっかり行ってきたことが挙げられる。いじめにかかわる事項については、生活アンケートを利用して児童生徒個々への教育相談や面談を、休み時間などを活用して行い、丁寧に対応できている。児童生徒が安心して学校生活を送っている要因と考える。
中学校	「ア 学校が楽しい」では、約92%が肯定的な回答であった。「友達と会える」「授業の学び合い学習で友人から分からないところを教えてもらいわかるようになった」などの理由が多かった。様々な行事や活動において、生徒同士が関わりをもって取り組むような場の設定を工夫し、活動時間を十分に与えることで、生徒自身が、自己有用感や所属感が高まっていることを実感しているのではないかと考える。また、先輩と後輩を意識した人間関係づくりも、良い影響を与えていると考えられる。 「イ みんなで何かをするのが楽しい」では、95%強が肯定的な回答だった。「自分

	一人ではできないが、みんなと協力することでできるものがある」「成し遂げた時の達成感がすごい」などの理由が多い。行事などに取り組む際の目標や見通しを立てさせ、時間を十分に確保し、自主的に活動させる中で振り返りができるように配慮したことが大きく寄与していると考え。また、生徒が自分の役割に責任をもってやり遂げられるよう、教師が支え見守っている点も、生徒の大きな達成感につながっているものと考え。
小学校	「ア 学校が楽しい」では、約 97%の児童が肯定的な回答をした。「先生や友達に会える」「行事が楽しい」「授業が楽しいし、いろいろ学べる」などの理由が多かった。生活アンケートなどの結果をもとに、児童個々に教育相談を実施したり、授業において十分な教材研究を心がけ、学び合いの学習を仕組んだりすることで、児童が充実した学校生活を送ることができているのではないかと考えられる。 「イ みんなで何かをすることが楽しい」では、96%以上が肯定的な回答をした。「みんなと協力できて、何かを成し遂げると楽しい」「友情を深められる」などの理由が多かった。行事後、その取組にどのような価値があり、どのような成果があったのか振り返り、互いを認め合える場を設定したためと考え。

## (2) 好ましくないと思われる事項

小・中共通	「ウ 授業に主体的に取り組んでいる」では、否定的な回答の児童生徒が 15%前後であった。前回までの調査においても同様の結果であり、なかなか意識が向上していない。児童生徒は「グループ学習は楽しい」「友人から教わりわかるようになった」など、グループ学習に有用感をもってはいるものの、それを主体性とはとらえておらず、「発言などの意欲」「授業への集中度」など、自分の内面的な部分に課題を感じていることがわかった。より発言を促す授業づくり、発言しやすい学習環境づくり・学級づくりが必要であると考え。
中学校	「エ 授業がよくわかる」では、否定的な回答の生徒が20%程度であった。前回までのアンケート結果と同様の数値を示している。「発言など積極性がない」「授業が難しくなり理解が困難である」「自分で努力をしていない」など、テストなどの結果から内面的な意欲が足りていないと答える生徒が多い。生徒の活動を増やし、意欲を喚起するようグループ学習を設定しているが、まだ、その成果は生徒の実感としてとらえられていないようである。教師が一方的に教授する授業ではなく、生徒にわかりたいと思わせるような授業を展開するよう、工夫が必要である。
小学校	「ウ 授業に主体的に取り組んでいる」では、1と答える児童が 47%に留まった。学び合いのある授業をし、学習活動が活発になっているように見えたが、児童の理由をみると「グループでは意見を出しやすいが、手をあげて発表することに自信がもてない」「時間内での理解が難しい」などが主としてあげられている。また、グループ活動などでの学び合いには効果を感じている反面、間違えた時に友だちがどんな反応を示すか不安を感じている児童が多いようである。そのため、学習環境を整え、授業という場を通しての適切な生徒指導を行い、学級としての集団づくりをしっかりとしていく必要がある。

## 5 取組事項

小・中共通	①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進 ②児童会・生徒会の交流活動の充実 ③小学校5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流 ④生活する地区ごとの小中合同公園清掃など、地域活動の充実
中学校	①陸上競技部による小学生の競技指導 ②合唱活動交流の実施 ③生徒会活動の充実
小学校	①小小連携による共通の学習規律の確立 ②縦割り班活動(清掃・集会)での交流を通じた感動体験の充実 ③地区民・保護者と連携し地域教材や人材を活用した学習の深化 ④教科部会単位で推進する授業改善

## 6 取組内容

### (1) 事業実施計画書に記載した月別実施内容

□=各校ごとの取組 △=小小児童間交流 ▲=小小教師間交流 ☆=児童・生徒間交流 ★=小中教師間交流

月	小学校で行う主な内容	実施状況	中学校で行う主な内容	実施状況
通年	<input type="checkbox"/> 学団ごとの朝会集会(永井小) <input type="checkbox"/> 月毎音楽集会(見前南小)	○ ○	☆小中挨拶交流(小中合同) ☆小中合同地域奉仕作業(小中合同) <input type="checkbox"/> 教育相談委員会	○ ○ ○
4月	<input type="checkbox"/> 中学校と連携した「まなびフェスト」の設定(全小)	○	<input type="checkbox"/> 小学校と連携した「まなびフェスト」の設定 <input type="checkbox"/> 新1年生入学時調査(1学年)  ★第1回連絡協議会【東京】(小・中) <input type="checkbox"/> 小中合同教科部会(小・中)	○ ○ ○ ○
5月	<input type="checkbox"/> 運動会(全小) ▲小小授業交流研究会(全小)	○ ○	☆第1回意識調査(小・中) <input type="checkbox"/> 生徒理解全体研究会(全校) <input type="checkbox"/> 体育祭への招待(小・中) <input type="checkbox"/> 体育祭(全校) ★小中授業交流研究会(小・中)	○ ○ ○ ○ ○
6月	△小小スポーツ交流[陸上](全小) <input type="checkbox"/> 縦割り班清掃(全小) <input type="checkbox"/> 農業体験活動(見前南小) <input type="checkbox"/> 遊び集会(永井小) <input type="checkbox"/> 縦割り班遊び(見前南小)	○ ○ ○ ○ ○	☆小中スポーツ交流[陸上](小・中) <input type="checkbox"/> 悩みアンケート(全学年) <input type="checkbox"/> 全校生徒教育相談(全学年) ★小中授業交流研究会(小中合同)	○ ○ ○ ○
7月	<input type="checkbox"/> 教育相談(全小) <input type="checkbox"/> 学団スポーツ交流会(永井小) ☆小小スポーツ交流[水泳]	△ ○ ○	★小中授業交流研究会(小・中) ★第1回魅力ある学校づくり事業調査研究委員会(小・中)	△ ◇
8月	▲小小授業交流研究会	○	★小中合同研修会(小・中) ☆児童会・生徒会実践交流会 ☆小中合同地域奉仕作業(小中合同)	○ ○ △
9月	△小小スポーツ交流[球技](小中交流をうけて) ▲小小授業交流研究会 <input type="checkbox"/> 縦割り班遊び(見前南小)		☆小中スポーツ交流[球技](小中合同) ★小中合同授業研究会(小中合同) ※11月予定の研究会を早めて実施	
10月	<input type="checkbox"/> 学習発表会(永井小)		<input type="checkbox"/> 小中合同教科部会(小中合同) <input type="checkbox"/> 音楽祭	

		☆音楽祭への招待（小中） ★学校公開研究会 ★研究紀要・リーフレットの作成
1 1 月	<input type="checkbox"/> 2 学年交流（見前南小） <input type="checkbox"/> 作品展（見前南小）	<input type="checkbox"/> 全校生徒教育相談 ☆小中合唱交流（小中合同）
1 2 月	<input type="checkbox"/> 第 2 回意識調査（全小） <input type="checkbox"/> 遊び集会（永井小） <input type="checkbox"/> 2 学年交流（見前南小） <input type="checkbox"/> 教育相談	<input type="checkbox"/> 第 2 回意識調査
1 月		☆新 1 年生体験入学（全小 6 ・中）
2 月	<input type="checkbox"/> 6 年生の企画による発信活動（永井小） <input type="checkbox"/> 縦割り班遊び（見前南小） ★第 2 回連絡協議会	★小中合同教科部会（小中合同） ★25 年度取組の総括（小中合同） ★第 2 回連絡協議会

## （2）8 月末までに実施した具体的な取組

### 〔小・中共通〕

#### 取組事項①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進

本年度、小中合同の教科部会も月 1 回程度開催し、児童生徒が自己有用感をもって学び合える授業のあり方について協議を重ねている。また、小中合同の教科部会による授業研究を推進し、各教科で期日を設定し、小・中学校互いの授業を参観し、授業改善を図っている。

授業中のグループ学習については、調べ学習や考えをまとめる時間に、児童生徒に互いの意見を交換させる工夫を行っている。そのため、児童生徒から「協力しながら学習することでわかるようになった」「みんなでやると他の人の考えを聞くことができ役立つ」などの感想が多く出てきた。今後は、グループで思考したものを堂々と発表できる場の設定などの工夫が課題である。

自分の考えを周りのみんなと認め合える集団づくり、雰囲気づくりすることで、さらに目指す授業に近づくものと考ええる。



#### 取組事項②児童会・生徒会の交流活動の充実

長年に渡り、小中での挨拶交流、合唱交流、地域活動の交流、スポーツ交流などを行ってきたが、本年度はさらに児童会・生徒会のリーダーが交流活動について話し合い、自分たちの力で運営していくことを考えさせる場を設定した。具体としては、夏休み中に実施した、小中合同の「リーダー研修会」である。小中のリーダー約 30 名が、夏休み以降の交流活動のあり方について話し合った。

その際、現在盛んに行われている小中交流の歴史を振り返る機会を設け、交流の意義を再確認し、自分たちで活動をしっかりやっという意識付けとなるようにした。続いて、小小交流活動についても小学校間で話し合い、リーダーが意識を高め、充実した研修会となった。

参加した児童生徒からは「交流活動が始まった理由について知ることができた」「普段会えない他の学校のリーダーと交流ができて良かった」「先輩方のような立派な中学生になりたい（小学生）」「小学生が非常に真剣で、自分たちももっと頑張らないといけない（中学生）」などの感想が寄せられた。

研修会の最後に、2 学期に予定している小中合唱交流会で合唱する「ふるさと」を全員でパート練習・全体練習をしたが、児童生徒には充実した表情がうかがえた。



### 取組事項③ 小学校 5・6 年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流

夏休みに行われる市内小学校水泳記録会に向け、7月に見前南小学校・永井小学校合同の練習会を実施した。お互いのフォームを確認し合ったり、競争したりすることにより、大会に向けて一緒に頑張ろうとする意欲が高まった。

また、今まで行ってきた小中のスポーツ交流と違い、小学生同士の交流であったため、互いにより身近に感じながらの交流にすることができ活動にも主体的に取り組ませることができた。



#### 〔中学校〕

### 取組事項③ 生徒会活動の充実

市内中学校陸上大会に向けた応援練習が例年以上に充実した活動となった。応援リーダーが、夏休みから工夫を凝らした応援を作り上げようというアイデアを出し合い、その具現化のために全校生徒一人一人の動きについて綿密に話し合うなどして、全校練習に臨んだ。リーダーの意気込みで全校生徒も応え、練習段階から声量、動きともに素晴らしいものとなった。学校の四大文化の一つとなった応援活動が、3年目に大きく開花した。

大会当日も、他校を圧倒する迫力で休みなく応援を続け、統制のとれた応援は、他校及び参観者から高評価を得た。

大会後に生徒が書いた感想文には、集団の一員として活動することの楽しさや、みんなで物事をやり遂げた楽しさについて、多く記されていた。

リーダーが自分の考えを自身の言葉で伝える姿、それに生徒一人一人が応えようとする姿に、リーダー育成の成果が現れていた。



#### 〔小学校〕

### 取組事項③ 地区民・保護者と連携し地域教材や人材を活用した学習の深化

6年生の修学旅行において、「岩手発信活動」をメインに据えて取り寄せた。自分たちの住む岩手県のことをもっと広く知ってもらうため、修学旅行で訪れた仙台市で岩手の名所や特産品を発表し、盛岡の郷土芸能である「さんさ踊り」を披露するとともに、震災からの復興の様子も紹介した。児童一人一人が踊りや発表・チラシ配布などの役割を分担して臨み、全員の力で作り上げる修学旅行を体験することができた。また、踊りの指導や調べ学習の資料提供において、保護者に協力を依頼し、保護者や地域と一体となった活動を展開することができた。今後、この活動を永井小学校の伝統として継続していくために、2月には、6年生から5年生への引き継ぎ式を行うことになっている。(永井小)

昨年度までも地域住民の方の力をお借りしながら取り組んでいた農業体験学習であったが、本年はより多くの地域の方の力添えを受け、田植え体験だけでなく、新たに芋植え体験も行うことができた。地区の方から指導を受けながら順調に作業を行い、各学年に沿った内容で体験学習を進めることができた。ご指導いただいた方々から、地域の歴史や文化などについて触れさせていただきながら学習を進めたため、地域への理解も深めることができた。(見前南小)



7 8月末までの取組状況と課題（第1回意識調査結果を踏まえた内容を含む）

（1）順調に進んでいる事項

小・中共通	<p>②児童会・生徒会の交流活動の充実          小中リーダー研修会を実施したことにより、児童生徒の目線から様々な小中交流活動について見直しを図り、実践することができた。2学期の活動についても話し合うことができ、今後の小中交流活動の意欲喚起にもつながった。</p> <p>③小学校 5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流          小学校 5・6年の陸上大会選手を中学校にむかえ、種目ごとの練習会を実施した。本年度は小学生リーダーが進行を務めながら活動を盛り上げた。予定時間をオーバーするほど小学生が積極的に練習を行ったり、中学生も技術の指導などいつも以上に熱が入ったりする様子が見られた。次回、球技大会へ向けてのスポーツ交流でも、小学生が中心となり会を進行していくように指導している。</p>
中学校	<p>②合唱活動交流の実施          2学期の小学校訪問で発表するための準備が順調に行われた。まずは、中学校の音楽祭へ向けて、全校合唱集会の開催、全校パート練習会など、概ね週1回の練習を積み重ねている。また、小中リーダー研修会においても、合唱リーダーの動きについて、中学生が実際に行いながら、小学生に教えることができた。</p>
小学校	<p>①縦割り班活動(清掃・集会)での交流を通じた感動体験の充実          遊び集会(永井小)や月例合唱集会(見前南小)などにおいて、リーダーの活躍が多くみられるようになった。小中リーダー研修会で中学生リーダーの動きについて学ぶ機会を得て、それを取り入れようとする姿が見られるようになった。</p> <p>③地区民・保護者と連携し、地域教材や人材を活用した学習の深化          農業体験学習(見前南小)では、地区の方から指導受け、畑作業など体験学習をすることができた。地域の方から、地域にまつわる歴史や文化などについて触れていただきながら学習を進めたため、地域への理解を深めることができた。</p>

（2）課題となっている事項

小・中共通	<p>①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進          学び合いの場面設定はできてきたが、話し合ったことや自分の考えを全体の前で、児童生徒が自信をもって発表するという場面設定に、課題が残った。また、学習の理解度についても、アンケート等で望ましい数値が得られていない。</p>
中学校	<p>③生徒会活動の充実          四大文化の「合唱」「応援」の成果は認められるが、「新聞」「ボランティア」を充実させるための手立てを考える必要がある。また、3年生中心の全校活動では取組がスムーズにいくが、学年の活動になると多少意欲の低下がみられる。3年生だけではなく、各学年・学級においても、リーダー育成の手立てを考えていく。</p>
小学校	<p>①小小連携による共通の学習規律確立          小小合同で研究会を行い、互いの教室環境などについて話し合いが深まり、「学習の進め方」について共通の掲示物を作成し、教室に掲示するなど、連携は進んできているが、まだ十分なものとはいえない。</p>

## 8 9月以降の重点推進事項

小・中共通	①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進 自分の考えやグループの考えを発表する場面設定を工夫する。それに伴い、挙手・発言がしやすいような学級づくり・集団づくりを行い、授業で生徒が主体性と積極性をもって取り組めるような手立てを考える。
中学校	③生徒会活動の充実 全校リーダーの育成ばかりでなく、各学年・学級におけるリーダー育成の手立てを考えていく。学年・学級だけで取り組む活動を実施し、その回数を増やしていくことで、各々の取組が全校のものとなり、全体もさらに成長していくと考える。
小学校	①小小連携による共通の学習規律確立 「学習の進め方」について共通の掲示ができたので、今後は、合同の教科部会において研究を深め、発表の仕方やノート指導について触れていく。

## 9 教育委員会の取組

### (1) 盛岡市教育委員会

#### 〔重点推進事項〕

- ・校内研究、合同研究充実のための支援（授業改善に係る小小・小中連携の推進）
- ・当該校区の実践内容や成果等の紹介による小中連携の啓発

#### 〔成果と課題〕

- 「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の支援（県教委との連携による、小中合同の研究会・教科部会での指導助言）
- 市の生徒指導主事会議、不登校対策委員会等における、当該校区の実践の紹介
- 合同研究の深化（今後も継続していくための体制づくりを支援）
- 当該校区の実践内容等の普及啓発（市内だけでなく、より広い範囲への紹介）

### (2) 岩手県教育委員会

#### 〔重点推進事項〕

- ・「児童生徒一人一人が自己有用感をもって学び合える授業づくり」並びに「絆づくり」を育む児童会・生徒会活動の活性化に係る実践の普及啓発
- ・人間関係づくり及び心の居場所づくりの一層の推進のための指導助言
- ・魅力ある学校づくり全般に係る指導助言と研究成果等の普及

#### 〔成果と課題〕

- 本事業に係る県教委並びに委託市教委担当者を増員し、より組織的に学校を支援する体制づくりをした。
- 本調査研究事業の成果を県内に普及する取組についての準備を進めた。
- 拠点校・連携校における本事業の推進状況の把握に課題があったため、第2学期以降、定期的に拠点校等を訪問することとした。

#### 【問い合わせ先】

所属	岩手県教育委員会			電話	019-629-6146	
職名	指導主事	氏名	佐々木 淳 一	よみがな	ささき じゅんいち	